

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2025

「伸びやかに生きる～大学は知の宝庫～」

第3回 10/31（金）13:30～15:00 報告

伸びの～びボッチャ交流会

～生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現しよう～

講師 和田 誠司（本学講師） 於：東キャンパス体育館

◆◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

令和7年度第3回公開講座（受講者24名）が10月31日に本学東キャンパス体育館で開催されました。人間関係学部子ども発達の和田誠司先生は、日本生徒指導学会、日本キャラクタ教育学会、日本道徳教育学会、日本道徳科教育学研究学会、日本学校教育相談学会に所属、日本学校心理士会、日本ボッチャ協会の会員です。

今回の「伸びの～びボッチャ交流会～生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現しよう～」と題された講演は、学生とのワークショップを通してボッチャを体験し、運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付ける講演でした。印象に残った話題をいくつかご紹介します。

ボッチャという競技は、年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。ヨーロッパで生まれたボッチャは、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たりして、いかに近づけるかを競います。上から投げても下から投げても、あるいは蹴ってもよいのです。障がいによりボールを投げることができなくても、ランプ（勾配具）を使い、自分の意思をランプオペレーターに伝えることができれば参加できます。ゆえに、「ボッチャはすべての垣根を超えて、誰でもできるスポーツ」と言われています。

講座は、学生の試合を交え、チームごとに練習、参加者同士の試合と進んでいきました。ボッチャの試合の流れは、まずは先攻がジャックボール（白球）を投球します。ジャックボール投球後、続いてジャックボール投球者が連続して自ボール（赤球）を投球します。ジャックボールが無効エリアに入ってしまった場合は無効となり、相手がジャックボールを投げる権利を得ます。後攻が自ボール（青球）を投球します。3種類のボールが揃ったタイミングで一度計測を行い、ジャックボールから遠い距離にある方が次に投球を行います。両者6球ずつ投球を行なっていきます。公式ルールでは制限時間を過ぎてしまうとボールが残っていても無効となります。この講座では初めての方でも楽しめるようにルールを簡素化して、制限は設けてありませんでした。

参加者は4名前後のチームになり、練習や試合を進めました。大学生との会話に笑顔にな

りながら、自分の投球をしたり、他の参加者の応援をしたりして、ボッチャを体験しました。同じチームの人とねらいを相談したり、声をかけあって応援したりしながら同じ時間をお過ごし、複数人で1つのことをやったり、競争をして本気を出したりすることで、知らない人とも運動を通して仲良くなり、笑ったり話したり、お互いを思いやったり、こうやつたらと意見を出すなど、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たすというスポーツのよさを実感していました。

受講生の方の本当に楽しそうな笑顔でボッチャを体験されているのを見て、障がい者のみならず、すべての人が生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する可能性を実感することができました。

受講後の質疑応答では、「どこへ行けばこのようなボッチャに親しむことができるのか」という質問がありました。講師からは「各学校や公民館などから依頼を受けて普及活動に努めていますので、依頼を受ければ開催できるように努めます」という回答がありました。

【講座の様子】

